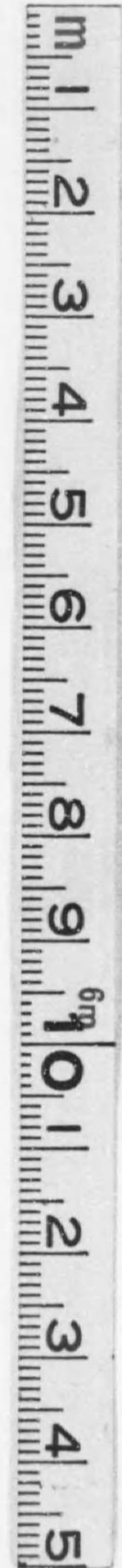


始



特273

669

大正十五年十月

京都市立商業實修學校一覽

寄 273
669

京都市立商業實修學校一覽

○沿革

本校ハ明治二十四年四月ニ簡易科ナル名稱ヲ以テ京都府立京都商業學校内ニ生レタノガ始メデアリマス。京都商業學校ハ明治十九年二月ニ設立サレタモノデアリマスガ創立ノ當初ヨリ生徒數甚僅デ校運振ハズ爲ニ常ニ府會ノ問題トナリ甚シキハ明治二十三年ノ通常府會ニ廢案トナリ再議ニ付セラレテ更ニ否決ノ運命ニ陥リ時ノ京都府知事ハ原案ヲ執行シテ辛フジテ命脈ヲ繋イダ位デアリマス。當時ノ生徒數ハ本科八十四名、内市內六十三名此レニ豫科補充科ヲ併セテ漸ク一百三十五名ニ達スル貧弱ナコトデアリマシタ。當時學校ノ維持繼續ヲ圖ルニハ生徒數ヲ増加スルコトガ何ヨリモ急務デアリマス。明治二十四年大津ヨリ轉任シ來リ着任早々ノ校長故大坪權六ハ同年四月ニ生徒數ヲ増加スル方策トシテ簡易科ナルモノヲ設ケマシタ其ハ尋常小學校(四箇年)卒業者ニ二箇年間簡易速成ノ方法ヲ以テ商業教育ヲ施ス課程デアリマス。此ハ米國ノ「ビスカレット」其他同國ノ低度短期ノ商業學校ニ倣ツタモノデアリテ洋行歸リノ新校長ニ依リテ仕組マレタノデアリマス。本最初ノモノト云ツテヨロシ。即チ商業使用人養成ヲ標榜シ實際ノ商業界ニアリテハ人ノ上ニ立ツベシナル人ヨリモ人ノ指圖ヲ受ケテ働ク人多數ヲ要スルトノ趣旨ニ出デタルモノデアツテ教授方法モ成ルベシ實際社會ニ接近セシムルコトヲ目的トシタモノデアリマス。此等低度ノ教育ヲ受ケタルノミニテ現時相當ノ商店主トナレルモノアリ或ハ富幾十萬ヲ重ヌルモノモアル。其後現今ノ制度尋常小學校(六ヶ年)卒業後三ヶ年ノ課程ヲ踐ミタルモノニテ現ニ會社ノ支配人又ハ課長タル者モ尠カラズシテ相當ノ能率ヲ擧ゲ居ルヲ見レバ簡易速成ノ商業教育ハ槩ニ効果アルベキ方法ト云フ可ク彼ノ無暗ニ學校ノ課程ヲ上進セシメ其程度ヲ高メ其卒業者ニ過剩ヲ來ス現時ヨリ見ルトキハ故大坪校長ノ簡易商業科ノ創設ハ大ニ賞賛ニ値ス可キモノト謂ハ

沿革

大正十一年
三月十五日
内交

故大坪校長ニ依リテノ簡易商業科ノ創設ハ當時商業學校生徒僅少ノタメニ府會ニ於テ彼レ是レ議論ノアツタ當時トシテハ二十四年二月ニ囑託セラレタ錦光山宗兵衛、柴田彌兵衛、故富田半兵衛外十二名ノ商議員ニ依リテ歡迎サレマシタ。此等商議員ハ熱心デアツテ常ニ學校ノ後援トナリ府會ニ於テ原案ノ通過ヲ計リ少クトモ毎日一二回ハ學校ニ會合シ巨細トナク學校ノ經營ニ參與シ今日ヨリ見テ商業教育ノ發展ハ時勢ノ趨勢トハ云フモノ、今日第一、第二并ニ商業實修ノ三商業學校ヲ併セテ常ニ三千餘人ノ生徒ヲ教養スル編ヲ造レルハ當時ノ商議員ノ盡力ニ待ツトコロ多ク是レ又忘ル可カラザルコトデアリマス。

明治二十四年簡易商業科ニ入學シタル生徒ハ三十幾名年度内ハ引續キ隨時入學ヲ許可シ同年度ニ入學シタル生徒ハ四十九名二十六年三月ニ第一回卒業生ヲ出シテ其數ガ僅ニ十一名トハ隨分細キ狀況ト謂フテヨロシイ。當時二學級デアツタガ生徒總數ハ六十名ニ達シナイ。二十七年ノ如キハ僅ニ四十七名ニ減ジマシタ現校長ノ井手力之助ノ就任シタルハ此時ニテ其就職ハ二十七年度ノ終即明治二十八年二月デアリマシタ。創設當時ノ簡易商業科ハ實際ニ適切ノモノトシテ大ニ歡迎セラレ且學校ノ勸誘ニ因リテ有力者ノ子弟ガ多ク入學シ大ニ望ヲ囑サレタニ係ラズ其後追々ニ衰微スルノデ大坪校長モ考慮ノ結果井手力之助ヲ簡易科ノ主任トシテ採用シ同科ニ係ル教授管理ノ總テヲ擧ゲテ擔當セシメタデアリマス。茲ニ於テ同年三月愈々簡易商業科ノ擴張ニ着手シ先ヅ教則ヲ改正シ實際ニ適切ノ教育ヲ爲サムコトヲ期シ且其ノ趣旨ヲ印刷シテ此レヲ配付シ市内小學校ニ入學ノ勸誘ヲ依頼シ或ル方面ニ向ツテハ改善ニ就テ意見ヲ諮リマシタ。即二三小學校長ノ意見ヲ容レテ教員組織ニ變更ヲ加ヘ普通教育ニ經歷アル教員ニ普通學科ノ教授ヲ託スルコト、シタ。此年勸誘効アリテ四月入學ヲ志願シタル者一百名ニ及ビマシタ然レドモ設備ノ不足ニ制セラレテ漸ク七十三名ノ入學ヲ許可シ爲ニ生徒總數ハ一百名ニナリマシタ。是レ空前ノ成績デアリマス。茲ニ於テ熱心ナル商議員等ハ大ニ同情シ直ニ校舍増築ノ議ヲ起シ府會ハ追加豫算ノ形式ヲ以テ且原案ノ費額ヲ増シテコレヲ可決シ堀川警察署ヲ移

轉セシメ其跡ニ一百四十二坪餘ノ教室ヲ増築シマシタ。二十九年三月更ニ教則ヲ改正シテ實際向ノ教科ヲ増加シ學級擔任ノ法ヲ採リ一人ノ教員ニテ自己擔當學級ノ全普通科ノ教授ニ當リ實業學科並ニ特殊ノ性質アル學科ノ教授ヲ専門科教員ノ擔當トシマシタ。又小學校ヨリ普通科ノ教授ニ經驗アル教員數名ヲ任用シ管理方法ニ意ヲ用キ幼年生徒ニ對シテ大ニ懇切ナラムコトヲ力メマシタ。此ノ方法ガ大ニ効ヲ奏シ入學志願者大ニ増加シマシテ三十年四月ニ入學ヲ許可シタルモノ一百六十二名ノ多キニ達シ爲ニ簡易商業科ノミデ生徒總數ガ二百名トナリマシタ。三十一年四月ノ入學志願者一百七十餘名アリマシタカラ選抜試験ヲ行ヒマシテ一百四十名ノ入學ヲ許可シマシタ。同年京都府會ハ蛸藥師堀川東ノ地所六百八十九坪一合六勺並ニ地上ノ家屋三百六十四坪一合ノ購入費壹萬七千貳百貳拾九圓修理費壹千四百拾圓ヲ可決シマシタ三十二年十一月ニ三十一年度ノ追加豫算ヲ以テ蛸藥師ノ教室新築費九千參百五拾五圓八拾九錢七厘ヲ決議シマシタ。此ク頻々ト京都府會ガ擴張費ヲ決議セルハ從來生徒寡少ノタメニ問題ヲ起シタル學校ガ俄ニ生徒數ヲ増加シタルガユエニ勢ヒツキテ茲ニ至レルモノデ一ニ商議員ノ熱心ニ基クモノデアリマス。次ニ生徒數ノ増加シタルハ一ハ本校ガ教育方法ヲ改善シタルニ因ルモノトハ云ヘ又一ニハ二十七八年戰役ノ好景氣ニ乗ジタルモノデアアル。二十九年一月校長大坪權六退職シ三十年八月谷田部梅吉京都商業學校長ニ就任サレマシタ。谷田部校長ハ簡易商業科ヲ分離獨立サシテ簡易商業學校ヲ設立シタルデアリマス三十三年一月谷田部校長病氣ノ故ヲ以テ退職ザレマシタ。同二月谷田部梅吉在職中職務ニ勉勵シ殊ニ簡易科ヲ擴張シ發達セシメタル廉ヲ以テ慰勞金貳百圓ヲ下賜サレマシタ。

三十三年四月一日京都市蛸藥師通堀川東入龜屋町二百八十九番地即舊京都商業學校簡易科ノ敷地建物ヲ以テ京都簡易商業學校ヲ開始シマシタ。同年十一月二十日京都府參事會ハ兩商業學校ヲ京都市ノ經營ニ移ス趣旨ヲ以テ兩校ニ關スル經費豫算案ヲ削除スルコトヲ決議シマシタ同參事會ガコレニ對シテ附シタル理由ハ左ノ如クデアリマシタ。

京都ノ地タル我邦三大都市ノ一ニシテ百種商業ノ機關ハ殆ソド整備シ益々其ノ擴張ヲ講ズルノ機運ニ進歩シツ、アリ。故ニ本府ハ夙ニ商業學校及ビ簡易商業學校ヲ設ケ實業子弟ノ教養ヲ怠ラザルハ能ク時運ニ適合スルノ處置タリト雖モ該校ノ經費ハ從來單純市部ノ負擔ニシテ府ノ全力ヲ盡シタルモノニ非ズ。然ルニ目下京都市ハ其自體ノ事業トシテ教育勸業等ノ發達ニ盡瘁シ著々其ノ美果ヲ收メントスル機運ニ向ヒタルモノト確信セリ。此際該校ヲ京都市ノ施設ニ任シ一層其ノ改良ヲ加ヘシメラルレバ其ノ効果反ツテ從來ニ倍從スルナラン是則チ刻下當然ノ機會ニシテ一舉兩得ノ良策タラント云フモ取テ不可ナカラン。仍リテ此ノ際斷然本費ヲ削除シ市ノ經濟ニ移スコトヲ希望ス。

三十四年三月三十日本校ヲ京都市ノ經濟ニ移シ京都市簡易商業學校ト改稱シタシタ四月廿二日井手力之助校長ニ就任シマシタ。十一月教則ヲ改正シ第一科第二科ノ二課程ヲ置キ修業年限ヲ各二箇年トシマシタ。第一科ハ高等小學校ニ學年ノ卒業者ヲ入學セシメ第二科ハ尋常小學校(四ヶ年)ノ卒業者ヲ入學セシムル仕組デアリマス。三十五年一月京都市會ニテ相生ノ地一千七百坪ヲ校舍敷地トシテ購入ヲ決議シマシタ。同十二月新築校舍落成シテ此レニ移リマシタ。三十七年三月教則ヲ改正シテ專修科ヲ加設シマシタ。三十七年科外教授トシテ荷造ノ練習ヲ始メマシタ三十八年七月商業實習部ヲ置キ山城產出ノ茶ヲ東京方面ヘ行商シマシタ。是レ前ニ茶業組合長故伊東熊夫ハ、兼テ山城茶ノ宣傳ニ熱心ナルガ當時各地方ニ販賣スル山城茶ハ多クハ混合品ガ場所違品ナルガ故ニ學校ガ真正ノ山城茶ヲ行商スルナラバ生徒ノ實地練習トナルト共ニ他方ニハ真正山城茶ノ宣傳トモナリテ京都府產業發達ノ趣旨ニモ叶ヒ公益トモナルベケレバ是非實行セヨト切ナル勸誘ヲサレタコトガアリマシタ。因リテ同年ヨリ實行スルコトニシマシタ。從來各地ノ商業學校ニテ行商ヲ爲シタルモノモアツタガ、其ノ成績面白カラザル上ニ隨分弊害モアツタ。由テ其ノ弊害ニ相當手ヲ燒イテ居ルコト、テ三十六年ノ地方商業學校長會ニテ行商ヲ行ハザルコトヲ決議シマシタ。然レドモ本校ハ聊自信アリ又弊害ノ如キハ仕組ト方法トニヨリテコレヲ防止シ得ベシト思意シ敢テ之レヲ實行スルコト、シマシタ。實

行ノ結果ハ教育上實効アルモノト認メタルヲ以テ爾來二十二年間毎年恒例トシテ之レヲ行フコトトシマシタ。三十八年十月隣地ヲ購入シ敷地ヲ擴張シマシタ。四十年二月校名ヲ京都市立商業實修學校ト改稱シマシタ。四十一年二月學校ハ富小路二條上ル現在ノ場所ヘ移轉シマシタ。同月教則ヲ改正シ尋常小學校六箇年ノ卒業者ヲ入學セシメ修業年限ヲ三箇年トシ舊來ノ第一科第二科專修科ノ課程ヲ廢シマシタ。是レ義務教育年限ヲ改メ尋常小學校ノ修業年限ヲ六箇年トナシタルニヨルモノデアリマス。同年四月、商業實習部ノ事業ヲ擴張シ校内ニ文具店ヲ設ケ又ニ條殊屋町西入ル所ニ文具并ニ雜貨ノ小賣店ヲ開設シマシタ。從來ハ實習部ノ利益金ハ其ノ都度學校ヘ寄附スルカ、其ノ他隨時處分ヲ爲シタルガ此ノ時ヨリ之レヲ積立テ實習部擴張ノ資ニ供スルコト、シマシタ。四十三年又都省ノ指定ニヨリテ英國倫敦ニ開催セル日英博覽會ニ出品シマシタ。出品物ハ荷造ノ模型并ニ寫真帖デアツテ寫真帖說明書ノ緒言トシテ次ノ様ナ文字ガアリマシタ。

我が學校ハ、今回日本政府ノ命ニヨリテ、日英博覽會ヘ出品スル榮ヲ得タリ。我が學校ハ日本帝國ノ一種ノ商業學校トシテ存在シ、商業上須要ノ學問ヲ教ユルノミナラズ、實際的商業學校トシテ、學問ノ應用ニ重キヲ置キ、商業ノ實地練習ニ最モ力ヲ用ユルヲ主義トシ、日々生命アル教材ニヨリテ、將來商人タルベキ幾多ノ生徒ヲ教養シ、毎年卒業生トシテ二百餘名ノ有爲ノ青年ヲ日本帝國ノ商業界ニ供給シ、卒業生ノ總數ハ、現時一千八百六十五名ノ多キニ達セリ。此ノ如クニ本校ガ日本帝國ノ實業教育ニ貢獻シツ、アル事實ヲバ此ノ機會ニヨリテ、英國ノ淑女紳士ニ知ラシメムニハ、學校ノ沿革ヨリ、其ノ組織、學則、修業年限、學科課程、教科目、教授及訓練ノ方法、教授ノ實況等ニ至ル迄ノ概略ヲ説明セザル可カラズ。然ルニ此等ノ事項ハ、孰レモ抽象ニ屬シ、密之レヲ文章ニ書キ連ネタルノミニテハ、頗ル無趣味ニシテ、爲ニ讀者ヲバ倦怠ニ陥ラシムルコトナキニアラズ。サレバ一々此等ヲ寫真ニ撮リテ、具體的ノモノト爲シ、此レニ解説ヲ附シ、其ノ二十二枚ヲ以テ、一ノ寫真帖ヲ組立テ、之レニ依リテ、學校ノ内容ヲ説明セントス淑女紳士ハ、幸ニ之レヲ一覽シテ、我が學校ノ大體ヲ了解セラレムコトヲ切望ニ堪ヘザルナリ。

日英博覽會ヨリ名譽大賞ヲ授與セラレマシタ。明治四十二年十月二日、東宮殿下行啓セラル生徒成績品並ニ教授ノ實際ヲ合覽ニ供シマシタ。後此ノ日ヲ以テ記念日トシ以テ 今上陛下 ノ萬歳ヲ奉祝スルコトニシマシタ。四十四年六月創立滿二十年記念式並ニ日英博覽會出品受賞祝賀會ヲ舉行シマシタ。大正元年十二月二十八日校長井手力之助多年實業教育ニ精勵シタル廉ヲ以テ文部省ヨリ選奨セララル。翌大正二年一月井手校長選奨祝賀會ヲ河原町共樂館ニ開ク。來會者本校評議員職員卒業生并ニ校長縁故者二百六十名ニシテ盛會デアッタ。大正六年十月生徒ニ運輸ノ實務ヲ知ラシムル目的ヲ以テ二條木屋町ニ鐵道小荷物取扱所ヲ設置シマシタ。大正九年十一月十一日創立三十年記念式井手校長就職滿二十五年祝賀式ヲ本市公會堂ニ開催シタ。來賓并ニ卒業生五百餘名ニシテ頗盛會ナリ。夜間同公會堂ニテ講演會ヲ開キ小山健三、谷本富、卒業生谷好夫、同村田鐵三郎ノ諸氏出演セララル。翌十二日ヨリ五日間本校内ニテ生徒實習大販賣會ヲ舉行シマシタ。其ノ仕組ハ、學校舎全部ヲ一ノ商店ト爲シ、各教室ヲ陳列場トシ一般觀覽人ニ即賣スルノデアリマス。其ノ賣上高貳萬貳千四百六拾貳圓參拾參錢ニ及ビ生徒ノ實習方法トシテハ的確ニ効力アリト思ハレマスカラ爾後恒例トシ每年秋季ニ一回之レヲ舉行スルコトニシマシタ。此ノ實習販賣會ハ逐年隆盛ニオモムキ大正十二年ノ如キハ販賣高金七萬貳千圓ニ及ビマシタ。大正十一年隣地二百五坪ヲ購入シ教室ヲ新築シ之レニヨリテ本校ノ敷地ハ北部ニアリテ柳馬場通ニ接續スルコトニナリマシタ。大正十二年二月教則ヲ改正シ學科課程ヲ第一種第二種ノ兩種トシ共ニ三箇年程度トシ第一種ノ卒業生亦第二種ニ入ルコトヲ得ルコトガ出來マス。十三年一月都合ニヨリテ鐵道小荷物ノ取扱ヲ停止シマシタ。大正十五年二月其ノ節ヨリ徵兵令第十三條及第一號ノ第二項ニヨリテ中等學校ト同等以上ト認定サレマシタ。同月第二種第一回ノ卒業生二十名ヲ出ス。本校ノ教育ハ創立ノ當初ヨリ商品中心主義ヲ標榜シ職員生徒ニ對シテ商品ノ研究ヲ獎勵シ彼ノ行商又ハ修學旅行ヲナサシメ販賣會ヲ開キ實習ノ爲ニ商店ヲ開キシ等ハ主トシテ商品科研究ノ資料ヲ得并ニ實務ヲ練習セシメムトスル趣旨デアリマス。又訓育ハ勤勞ヲ本位トシ力行不惑ハ學校多年ノ方針デアリマシテ職業ニ堪ヘ

得ル習慣ヲ養成セムトハ積年ノ主張デアリマス。サテ如上ノ目的ヲ達スル最モ有効ナル方法ハ學校所屬ノ店舖ヲ設ケ生徒ニ實地練習ヲ爲サシムルコト恰モ醫學校ノ病院ニ於ケルガ如クナラシムルノデアリマス。此ノ企圖ヲ實現セシムルハ容易ノ業ニアラザルモ幸ニ他日目的ヲ達スルコトヲ得バ一ニ本校ノミノ幸福デアリマセヌ。本校現在ノ卒業生總數ハ累計四千五百六十二名デアリマス。

京都 商業實修學校規則

第一章 總則

- 第一條 本校ハ商業學校規程ニ依リ商業上ノ智識技能ヲ授クルヲ以テ目的トシ兼テ德性ノ涵養ニ力ムベキモノトス
- 第二條 本校ニ第一種第二種ヲ置キ其ノ修業年限ヲ各二ケ年トス
- 第三條 本校生徒ノ定員ハ第一種八百五十名第二種百五十名トス
 - 第一章 學科目及其ノ程度
- 第四條 本校ノ學科目ハ修身、國語、數學、地理及歴史、理科、簿記、商業要項、商業實踐、商品、法制、經濟、英語、體操トス
- 但第一種ニアリテハ理科ヲ除ク
- 第五條 本校ノ學科課程表ハ左ノ如シ

第一種 課程表

學科目	學年別	
	第一學年	第二學年
修身	一 道德ノ要旨	一 同上
業時數	一 同上	一 同上

商業實踐						六 内外商業實踐
商 品				二 内外重要商品		
法 制	二 法制大意、民法		二 民法		三 商法、手續法	
經 濟	二 經濟大意		二 各論		三 同上	
英 讀 方 譯 解	四 讀方、譯解		五 同上		五 同上	
語 會 話 作 文	二 會話、作文		二 同上		三 同上及商業書信	
體 操	三 體操教練遊戲		三 同上		三 同上	
合 計	三三三		三三三		三三三	

第三章 學年學期及休日

第六條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終リ左ノ三學期ニ分ツ

第一學期 四月一日ヨリ八月卅一日ニ至ル

第二學期 九月一日ヨリ十二月卅一日ニ至ル

第三學期 翌年一月一日ヨリ三月卅一日ニ至ル

第七條 休業日ヲ定ムル事左ノ如シ

一、祝日、大祭日

二、日 曜 日

三、加 茂 祭 五月十五日

四、學校所在地氏神祭 當 日

五、平安神宮祭 當 日

六、春 季 休 業 三月二十五日ヨリ
四月七日ニ至ル

七、夏 季 休 業 七月二十一日ヨリ
八月三十一日ニ至ル

八、冬 季 休 業 十二月二十五日ヨリ
翌年一月七日ニ至ル

第四章 入學及退學

第八條 入學期ハ學年ノ始メトス、但臨時入學ヲ許スコトアルベシ

第九條 第一種第一學年ニ入學ヲ許スベキモノハ年齡滿十二年以上ニシテ尋常小學校ヲ卒業シタル者若クハ

試験ニヨリ之レト同等ノ學力ヲ有スルモノト認メタルモノタルベシ

第十條 第二種第一學年ニ入學ヲ許スベキモノハ高等小學校ヲ卒業シタル者又ハ他ノ學校ニ於テ之レト同等

ト認ムベキ課程ヲ修了シタル者タルベシ

第十一條 各種第二學年以上ニ入學ヲ許スベキモノハ相當年齡ニ達シ前各學年ノ課程ヲ卒リタル者ト同等ノ

學力ヲ有スル者タルベシ

前項入學者ノ學力ハ前各學年ノ程度ニ於テ其ノ各學科目ニ就キ試験ニヨリテ檢定スベシ

第十二條 入學志願者ノ數入學ヲ許スベキ人員ニ超過スルトキハ從前教育ノ成績ヲ考查シ又ハ學力試験ヲ行

ヒテ入學者ヲ選拔スベシ

第十三條 入學志願者ハ第一號書式ニヨリ入學願書ヲ差出スベシ

第十四條 入學ノ許可ヲ得タルトキハ其ノ當日ヨリ五日以内ニ第二號書式ニヨリ保證人ヨリ保證書ヲ差出ス

ベシ

保證人ハ入學者ノ父兄後見人若クハ近親者ニシテ戸主タル者タルベシ
 第十五條 保證人ニシテ轉居、改氏名、其ノ他異動ヲ生ジタルトキハ五日以内ニ其ノ旨ヲ届出ツベシ
 第十六條 病氣其ノ他已ムヲ得ザル事故ニヨリテ退學セムトスルトキハ其ノ旨ヲ記シタル退學願書ヲ差出シ許可ヲ受クベシ

第十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ退學ヲ命ズルモノトス

- 一、性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者
- 二、學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者
- 三、引續キ一箇年以上缺席シタル者
- 四、正當ノ理由ナクシテ引續キ一箇月以上缺席シタル者
- 五、出席常ナラザル者

第五章 試業

第十八條 試業ヲ分テテ學期試業學年試業ノ二種トス

第十九條 學期試業ハ一學年ニ二回之レヲ行ヒ學年試業ハ學年ノ終リニ其ノ學年中修了セシ學科ニ就キ之レヲ行フ

第二十條 各種試業ノ各科目評點ハ壹百點ヲ定點トシ各科四十點以上ニシテ平均六十點以上ヲ得タル者ヲ合格トシ之レニ及バザル者ハ不合格トス

第二十一條 最後學年ノ試業ニ合格シタル者ニハ第三號書式ニヨリ卒業證書ヲ授與ス

第六章 授業料

第二十二條 授業料ハ左ノ區分ニヨリ每學期之ヲ徵收ス

但本校ノ都合ニ依リ休業全學期ニ亘ルトキハ其ノ學期分ノ授業料ヲ徵收セズ

種別	課程		第一學期	第二學期	第三學期
	第一種	第二種			
本市内ニ住所ヲ有スル者若クハ其ノ家族タル者	第一種	第二種	拾四圓	拾參圓	拾參圓
一、前號以外ノ者	第一種	第二種	拾七圓	拾七圓	拾六圓
	第一種	第二種	拾五圓	拾五圓	拾五圓

前項第一號ニ該當スル者ニシテ第二號ニ該當スル者ニシテ第一號ニ該當スル者ニ至リタルトキハ其ノ翌學期ヨリ當該授業料ヲ徵收ス

第二十三條 授業料ハ每學期所定ノ期日ニ其ノ學期分ヲ納ムベシ但納付期日後ニ入學シタルモノハ入學ノ際之レヲ納ムルモノトス

第二十四條 授業料ノ納付ヲ怠ル者ハ其ノ情狀ニ依リ登校ヲ停止スルコトアルベシ

第二十五條 全學期缺席ノ者ト雖本校ニ學籍アル間ハ授業料ヲ徵收ス但疾病其ノ他已ムヲ得ザル事故ニ依リテ屆濟ノ上全學期間缺席ノ者ニ限リ其ノ學期分ノ授業料ヲ徵收セズ戰時若クハ事變ニ際シ出征又ハ應召シタル軍人ノ子弟ニシテ特別ノ事情アリト認ムル者ニ對シテハ第二十二條ノ授業料ヲ減額シ又ハ徵收セザルコトアルベシ

第七章 罰則及退學

第二十六條 性行不良ニシテ成業ノ見込ナキ者若クハ校則ヲ犯シ其ノ他生徒トシテ素行修マラザル者ハ左ノ各號ニヨリ處分ス

- 一、謹慎
- 二、停學
- 三、退學

第八章 補則

第二十七條 本規則ノ施行ニ關スル細則ハ學校長ニ於テ之ヲ定ム
 第二十八條 本規則ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
 (第一號書式)

入學願書

(用紙半紙野)

原籍、住所、身分、職業(某何男又ハ弟)

氏

名

右者御校第一(第二)種第何學年ニ入學爲致度候ニ付御許可相成度別紙履歷書相添へ此段相願候也
 年月日

原籍、住所、身分、職業、志願者ノ父兄
 戶主又ハ後見人

氏

名印

京都市立商業實修學校長氏名殿

履歷書

(用紙半紙野)

原籍、住所、身分、職業

氏

名

年月日生

一 年月日何府何市何學校ニ入學

一 年月日何府何市何學校卒業

一 年月日何府何市何學校第何學年ノ課程修業

右

年月日

氏

名印

(第二號書式)

保證書

(用紙半紙野)

原籍、住所、身分、職業(某何男又ハ弟)

氏

名印

年月日生

右者今般御校ニ入學許可相成候ニ付テハ御規則等堅ク可爲相守ハ勿論在學中本人ニ關スル事件ハ一切拙者
 引受ケ可申候仍而保證書差出候也
 年月日

原籍、住所、身分、職業、志願者、父母、後見人、近親者

何

某印

年月日生

京都市立商業實修學校長氏名殿

規則

大正十五年四月 嘱託教員
 大正十二年十一月 嘱託教員
 大正十二年四月 嘱託教員
 大正十四年六月 嘱託教員
 明治四十五年六月 嘱託教員
 大正十四年十月 嘱託教員
 大正十四年四月 嘱託教員
 大正十四年二月 嘱託教員
 大正十四年九月 嘱託教員
 大正十五年八月 嘱託教員
 大正十四年四月 嘱託教員
 第九聯隊付陸軍歩兵大尉 軍事教官

修身、國語、歷史
 修身、國語、歷史、商品
 物理、化學
 荷造法
 國語、珠算、要項
 簿記、英會話
 會計庶務
 會計庶務
 庶務
 教練

草部了圓
 高屋定一
 新堂順明
 石橋(雅八)
 藤井伊兵衛
 藤井金五郎
 フロイド、アイヴァ
 シング、ロービア
 浦谷久吉
 吉田清
 大森久三
 原田以作
 阪口芳之助

敷地及建物

一、本校敷地面積 一千七百九十五坪一合
 二、建築敷地面積 六百十坪八合五勺
 一、洋樓內譯
 二、未造瓦葺二階建教室 三棟 三百四十坪
 三、同事務室 一棟 三十六坪
 四、奉家建生徒控所 一棟 九十六坪

二、奉家建小使室及物置 三棟 三十坪七合五勺
 三、生徒昇降口湯呑所及附屬廊下 一棟 十二坪
 四、教場其他廊下 一棟 三十一坪五合
 五、廁所及傳廊下 四棟 二十四坪五合
 六、鏡、鏡、室 一棟 十八坪一合
 七、車寄 一棟 二十坪
 八、車寄 一棟 二坪

圖書、器械、標本類

(大正十五年四月一日現在)

圖書ノ部 四、三六〇冊
 理化學器械ノ部 四一九點
 標本模型ノ部 二〇九點
 教室并ニ體操用器具ノ部 二、八七七點
 雜具ノ部 二、〇五五點
 體操器具ノ部 九點
 商品標本
 體操器具
 醫藥器具
 圖書ノ部
 理化學器械ノ部
 標本模型ノ部
 教室并ニ體操用器具ノ部
 雜具ノ部
 體操器具ノ部
 醫藥器具

敷地及建物、圖書、器械、標本類

大正二十二年	二二、五六〇・〇〇	一、一〇五・〇〇	五五、四七五・〇〇
大正二十三年	三六、八五二・〇〇	一、一〇六・〇〇	五九、九八三・〇〇
大正二十四年	四一、三一七・〇〇	〇・六〇〇	六三、四〇五・〇〇
大正二十五年	四〇、四一四・〇〇	〇・六〇〇	六三、五五九・〇〇

○生徒異動表 (五月一日調査)

年度別	入學志望者	入學者	半途退學者	卒業生	生徒總數
明治二十四年度	四九	四九	一二	一	四四
同二十五年度	四五	四五	一八	一一	六八
同二十六年度	三五	三五	二二	一七	五一
同二十七年度	三三	三三	一七	二二	四七
同二十八年度	九五	七三	一九	二六	二〇〇
同二十九年度	一六五	一六二	一九	四一	二〇〇
同三十年度	一四九	一四四	四七	七三	二六〇
同三十一年度	一六四	一三〇	六八	五七	二四四
同三十二年度	一九九	一四三	五八	七六	二七三
同三十三年度	二二六	二〇三	四二	一〇六	三二〇
同三十四年度	二二六	二二六	八九	一三四	三四二
同三十五年度	二七八	二七八	七一	一二五	三九五
同三十六年度				一二七	四七一

年度	入學志望者	入學者	半途退學者	卒業生	生徒總數
同三十七年度	二五一	二五一	一四四	一七二	五二〇
同三十八年度	二九〇	二九〇	一二九	一九二	五二二
同三十九年度	四二四	四二四	一一八	二三二	六二八
同四十年度	四七六	四七六	一七九	三〇〇	七七三
同四十一年度	三三三	三三六	一六二	二〇二	六三六
同四十二年度	三三六	三二九	二二八	五七	五八二
同四十三年度	四二五	三三二	一九四	一〇〇	六七七
同四十四年度	四三九	二九三	一七六	九七	六七八
大正元年度	三五三	二六四	一七五	一三八	六六五
同二年度	四〇五	三三〇	一一四	一三〇	六七三
同三年度	三六五	二九四	九五	一二〇	六八二
同四年度	四七一	三一八	五六	一三六	六九八
同五年度	三六五	二七六	七三	一四九	七〇〇
同六年度	四二二	二九四	一二八	一八〇	七〇〇
同七年度	五二一	二九五	一三四	一七五	七〇〇
同八年度	六二八	二八六	一〇一	一七五	六九七
同九年度	七三〇	三三一	九四	一八五	七三九
同十年度	七五二	三〇六	一〇一	二一四	七七三
同十一年度	七三七	三三一	五二	二二五	七七九
同十二年度	七九一	三五五	六五	二七八	八三三

○生徒父兄職業別表

(大正十五年五月調)

級別	商業	工業	農業	自由業	水産業	交通業	雑業	無業	計
二種三年	一四	二一	一	二			二	一	二〇
二種二年	一四	二二		一			一	一	二二
二種一年	一九	四四		一			一	一	二二
一種三年	一四	二四		三			一	一	二二
一種二年	二〇	三九		八			二	一	三〇
一種一年	二三	五八		六			一	一	三三
合計	六二九	一二八		二〇			五	一	九三一

○生徒年齢表

(大正十五年五月調)

級別	最長者	最幼者	平均
第二種第三學年	十九年四月	十七年二月	十七年八月
第二種第二學年	十七年七月	十五年三月	十六年四月
第二種第一學年	十七年七月	十四年四月	十五年五月
第一種第三學年	十六年十一月	十四年二月	十四年九月
第一種第二學年	十六年八月	十四年三月	十五年八月
第一種第一學年	十四年三月	十二年二月	十四年八月

京都市立商業實修學校

大正十五年十月八日印刷
大正十五年十月十日發行

編輯兼發行者 井手力之助

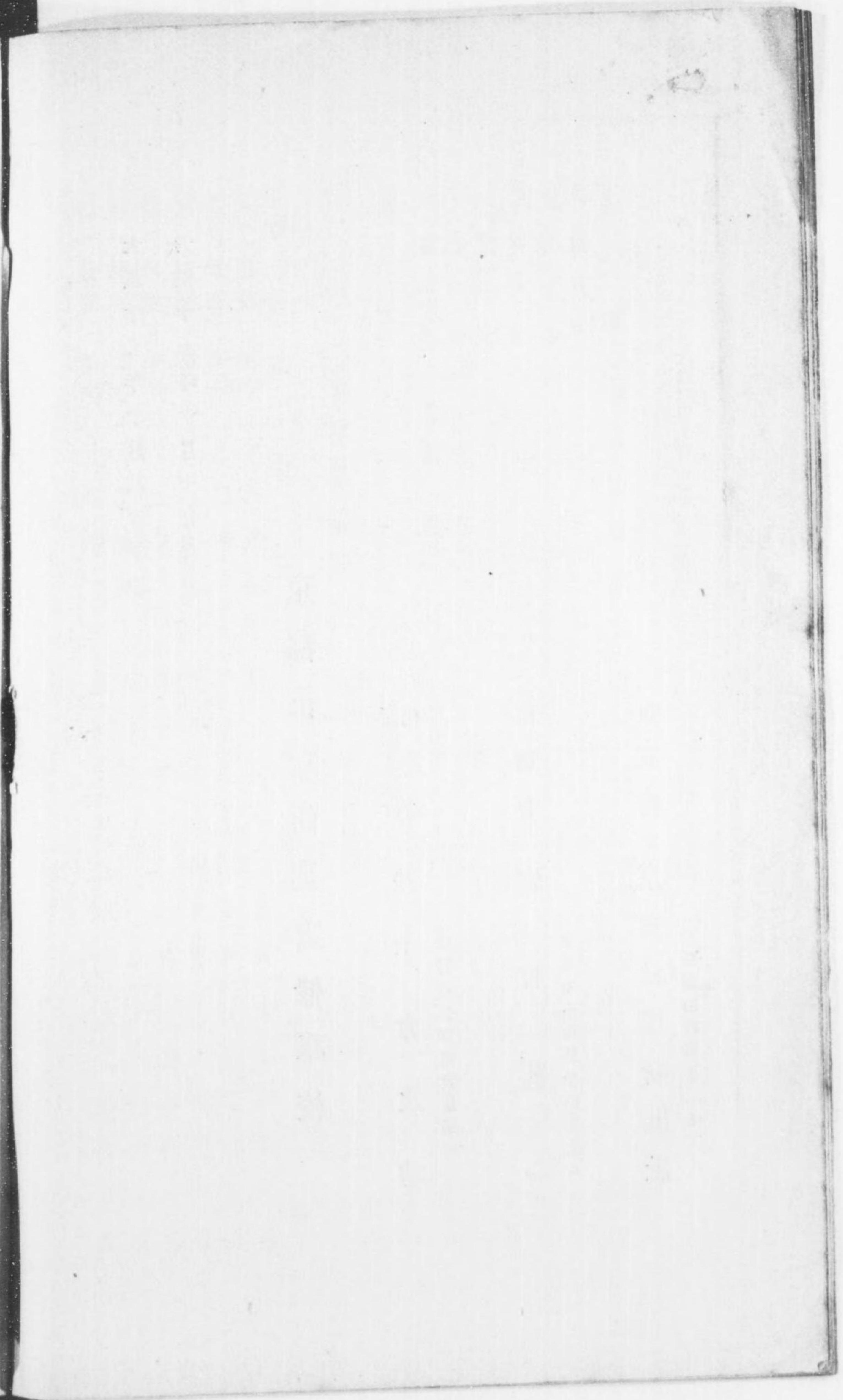
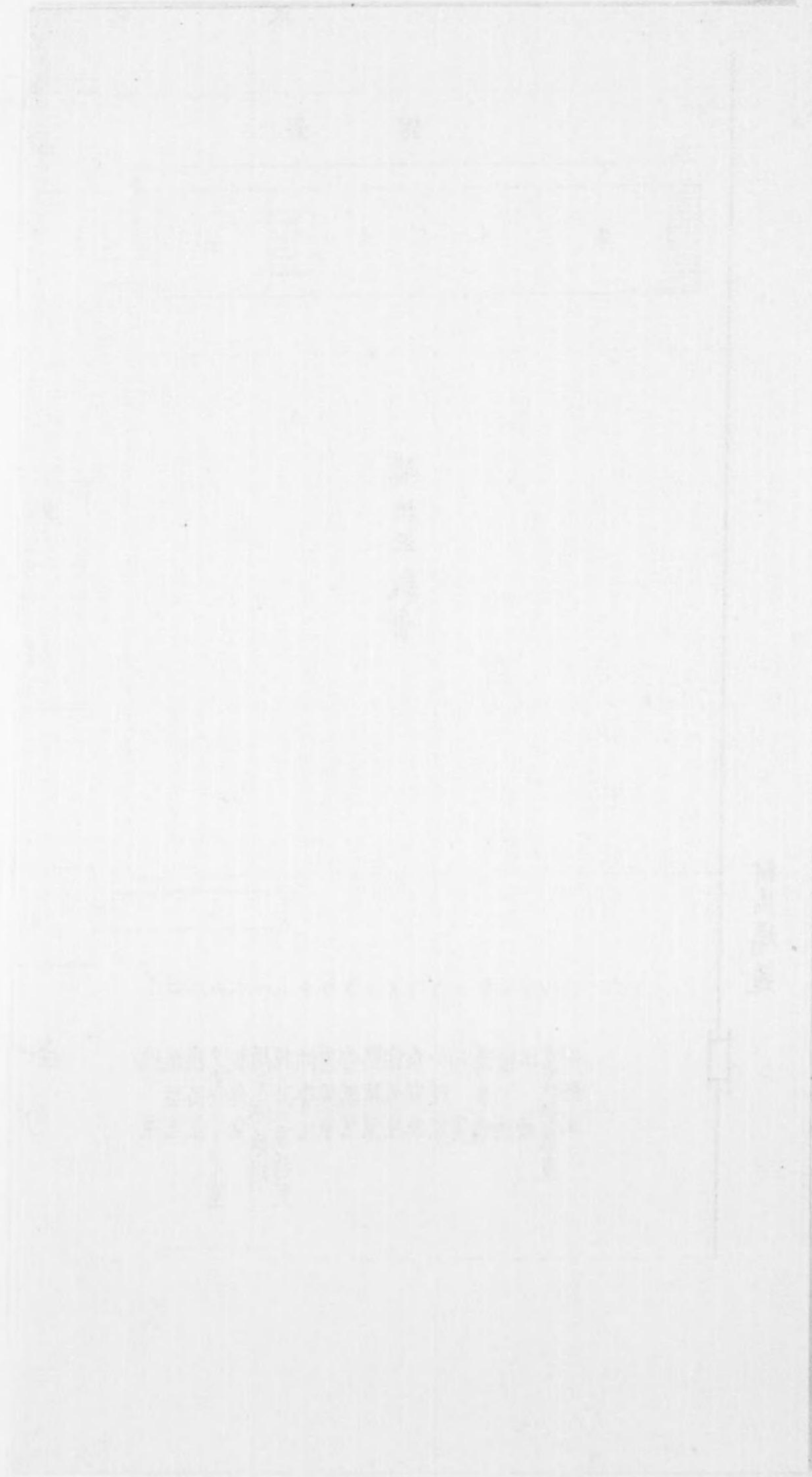
京都市立商業實修學校内

印刷者 宮竹義一

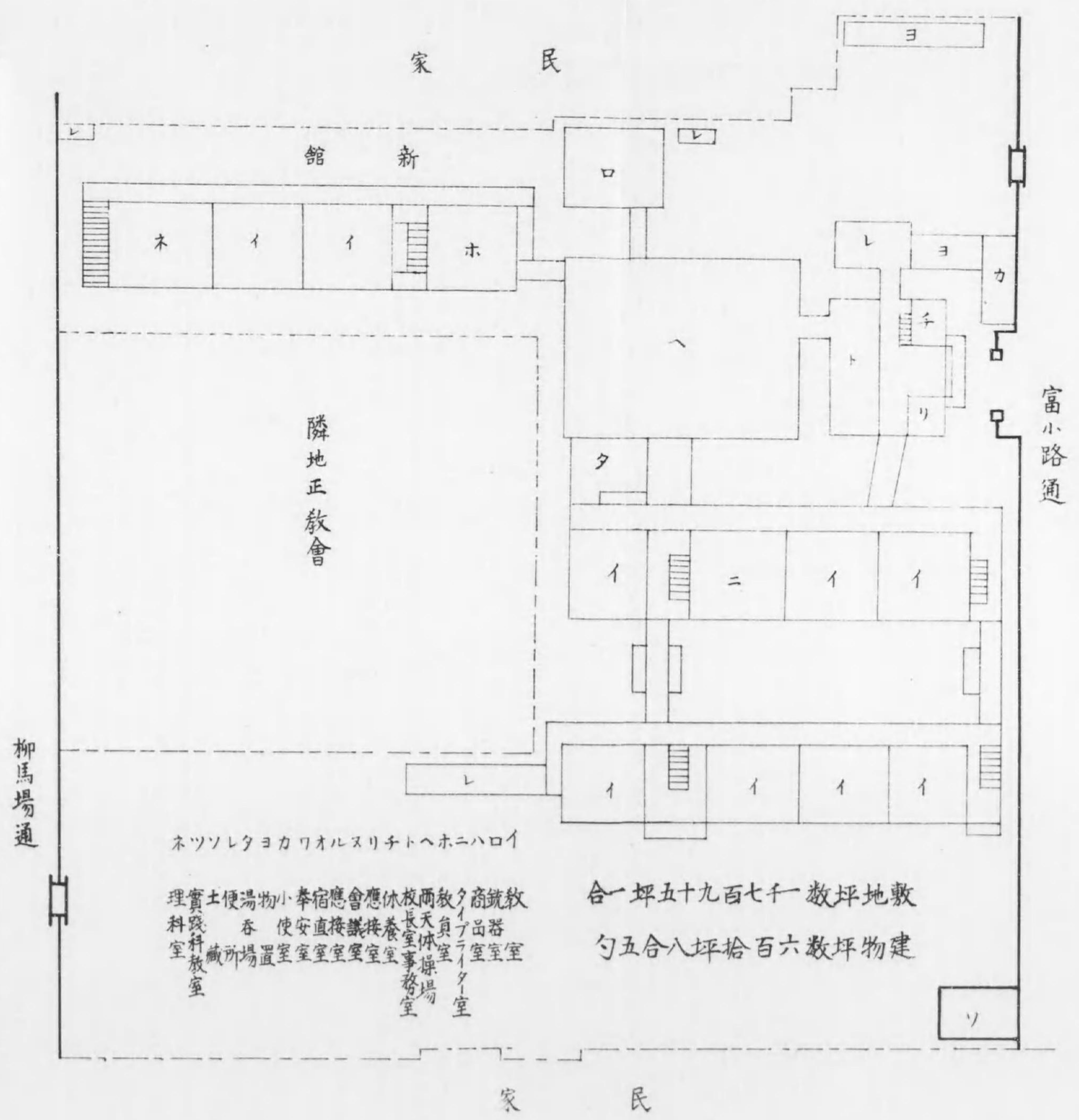
京都市小川通今出川上ル

印刷所 京都日出新聞社

京都市柳馬場通二條下ル



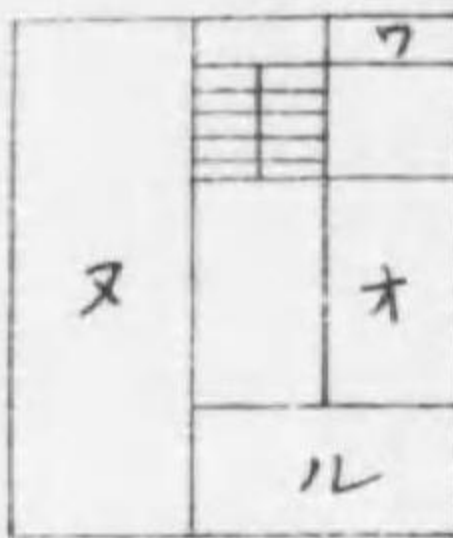
京都市立商業實修學校平面圖



ホニハロイ

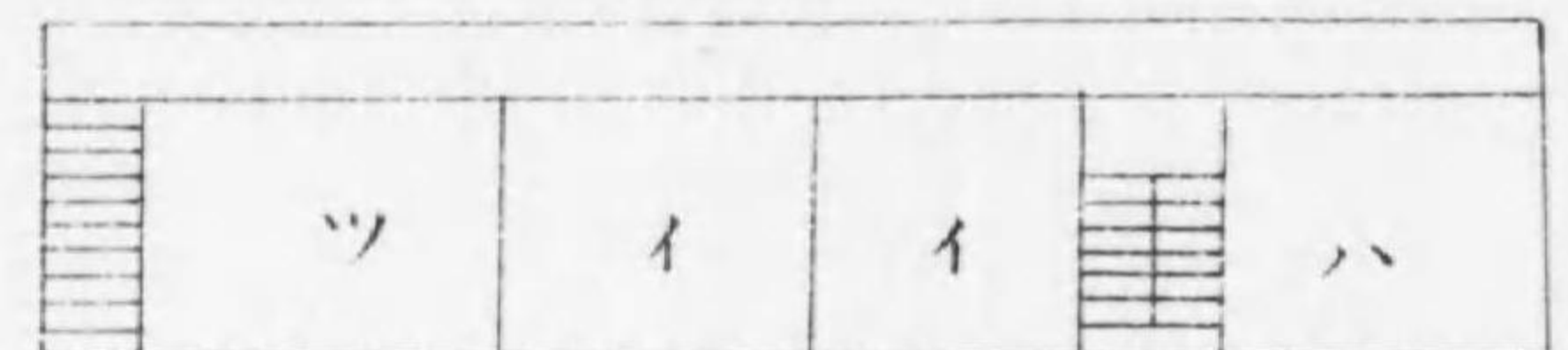
教 器 室
 商 品 室
 夕 飯 室
 教 員 室
 兩 天 操 場
 校 長 室
 休 養 室
 應 接 室
 會 議 室
 應 接 室
 宿 務 室
 奉 安 室
 小 使 室
 物 置 室
 湯 吞 藏
 便 所
 土 藏
 實 驗 室
 理 科 室

敷地坪數 七千九百五十一坪
 建物坪數 六百八拾八坪五合

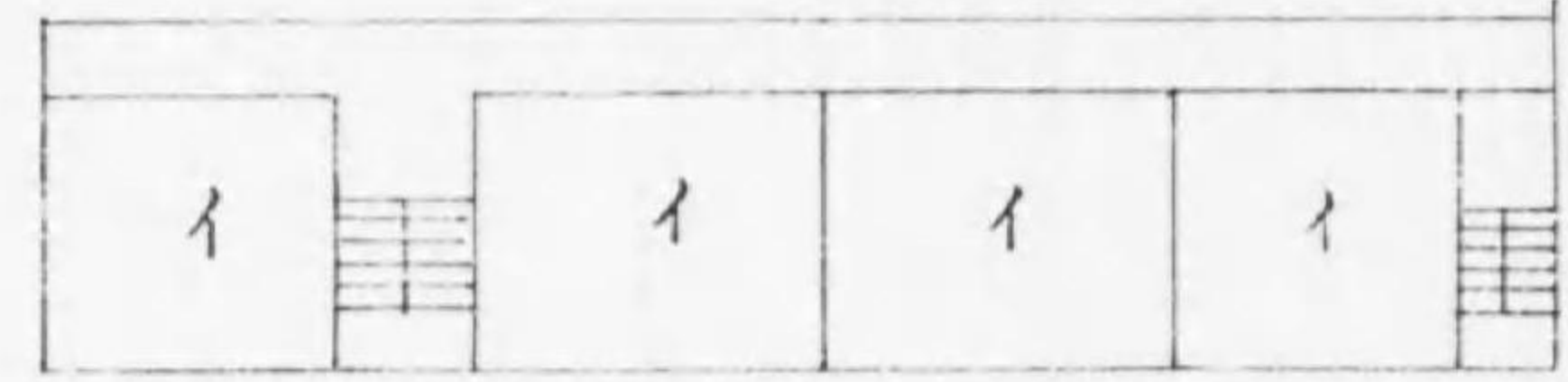


階上之部

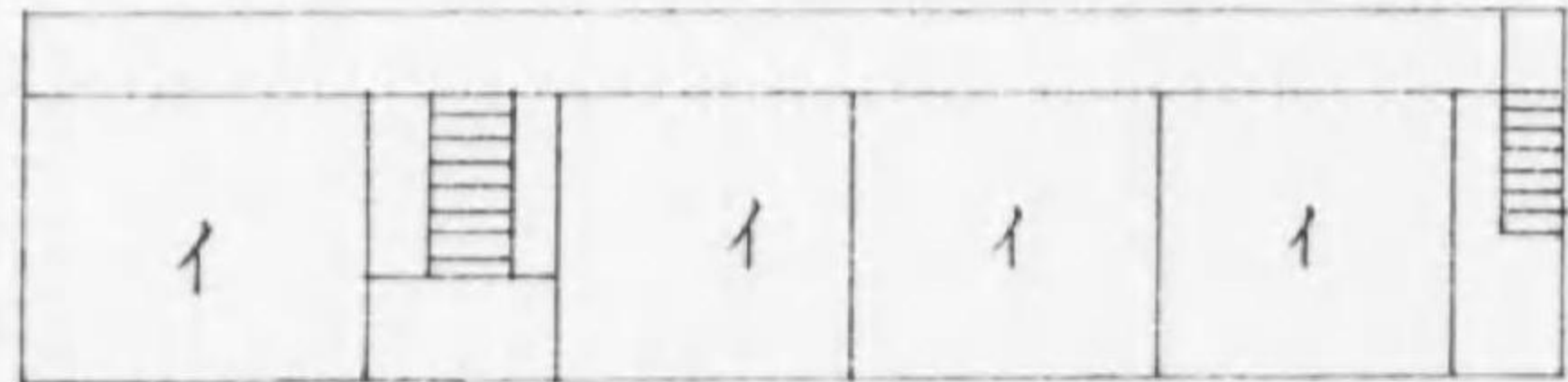
新 館



北 棟



南 棟



310
166

廣東省立第一師範學校



廣東省立第一師範學校
建築師 謝子衡

終

